

研究計画書

ゼミ名	稲田ゼミⅡ	チーム名	チームハヤテ
タイトル	これからのインバウンド！		
テーマ群	a)理論、情報 e)産業、理論 g)その他		
メンバー	.....		
研究計画内容	<p><b>「研究背景」</b></p> <p>私たちは、これまで関西経済を中心に様々な議論を行ってきました。その中で私たちが焦点を当てたのが訪日外国人や観光客による観光業の動向です。これからの関西インバウンド経済をより良くするためにはどうすればいいのかを研究してきました。私たちの研究目標は観光公害による問題対策と民泊を積極的に活用することによって、「オーバーキャパシティ」という問題が緩和できるのではないかと考えました。</p> <p><b>「研究内容」</b></p> <p>日本では、ここ近年では訪日外国人や地方からの観光客の数が年々増加しており、例えば JNTO によると 2019 年 7 月では訪日外客数が約 300 万人で前年比に比べると 5.6%と年々訪日外国人は順調に増加しているのがわかります。しかし、今年の調査結果を見てみると前年比に比べ-99.9%と大幅に減少しています。なぜなら、コロナウイルス流行によるものです。そのため、今年の訪日外国人数の増加は見込めないことが容易に予測できます。しかし、私たちのグループでは今の時期が好機であると見ています。この時期を活かし各自治体で様々な議論ができる時間ができたと思います。私たち研究内容である「観光公害に対する対策案やオーバーキャパシティ改善のため民泊をどのように活用していくのか」を議論しています。自分たちなりの改善策や解決の糸口を見つけ出すことを目的としている。</p> <p><b>「期待される効果」</b></p> <p>観光公害の対応策を講じ、訪日外客がよりよく日本を訪ねやすくすることで、今後インバウンドを増加させることが期待できる。また、民泊を活用することで訪日外国人の許容量を増加させられると考えられる。これらの分析結果はコロナ禍後の観光戦略を考えるうえで重要な示唆となる。</p>		